

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 51

1. 基本情報							
<1> 事業・業務名		119番通報訓練業務			<2> 事業・業務の別		事業
<3> 選定基準		④ 平成29年度に事業内容(対象・手段等)を見直した事業・業務			<4> 継続評価・新規評価の別		新規評価
<5> 総合計画 基本計画 での体系	大項目	5 災害に強く 快適で住みよい 夢を支えるまちづくり			<6> 担当部(局)		消防本部
	中項目	5-1 災害に強く安全安心なまち			<7> 担当所属		通信指令課
	小項目	5-1-2 消防・救急			<8> 担当係等		第1係
	施策	119番通報訓練業務					
<9> 根拠法令・計画等		消防法		<10> 関連・類似事業			
<11> 会計		一般 会計		<12> 予算科目		9 款 1 項 1 目	
<13> 実施期間		27 年度 ~ 30 年度		<14> 全体事業費		千円	
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		市民誰でも出来る119番通報							
目的	<17> 事業・業務の目的	小山市、野木町に在住若しくは勤務する誰もが正確かつ迅速に119番通報が出来るよう訓練を実施し、火火、災害、救急等の現場に1分、1秒でも早く到着するよう努力する。							
	<18> 事業・業務の対象	小山市、野木町に在住若しくは勤務する方。							
手段	<19> 平成29年度の活動内容	各種イベント、庁舎見学、各種講習会及び訓練、出前講座等に出向して、119番通報の重要性、通報内容等を確認、指導する。							
	<20> 活動指標 (アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	実施回数	回	50	13	50	26	52.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	事前に119番通報装置を活用し疑似体験を実施することで、通報者が不安を解消することができ、有事の際、落ち着いて通報が可能となる。							
	<22> 成果指標 (アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	体験者数	人	2,500	611	2,500	575	23.0%		
コスト ～資源の投入量	<23> 投入指標 (インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		コスト	千円	450	225	450	144	32.0%	
		事業費等	千円	0	0	0	0		
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
一般財源	千円								
人件費	千円	225	225	144	144	100.0%			
正職員	千円 × 人役	7,506 × 0.03	7,506 × 0.03	7,195 × 0.03	7,195 × 0.03				
他の職員		×	×	×	×				

3. Check - 評価 -								
実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の妥当性	1.妥当である	理由	消防機関主催のイベント及び講習会等を通じて実施体験者を増やすことで目的を達成することができる。また、119番通報装置を使用して模擬の通報訓練を実施することで、実際に通信指令課員から指導を受けることができる。			
		<25> 手段や実施手法の妥当性	1.妥当である					
	有効性	<26> 成果の向上余地	2.向上の余地がある	理由	実施者を増やすために活動内容に加え、広報活動等を実施し、成果向上を図る。			
	効率性	<27> 事業費や人件費の削減余地	1.削減の余地なし	理由	現時点で必要最低限の職員数で実施しているため、コストの削減は難しい。			
	公平性	<28> 受益者負担の適正化余地	1.適正	理由	現在、実施者に負担はない。通報の趣旨は、任意的要素が強く、消防側が事案覚知において、スムーズに行えるようにするため、受益者負担を求めるのは不適正と考えられる。			
	<29>総合評価	2.改善の余地がある	理由	多くの市民に通報体験を実施してもらうため、多くのイベントや講習会に出向し体験してもらう。また、出前講座「できますか？119番通報」を活用し、自治会、事業所等で実施できるようにPRする。				
4. Action - 改善 -								
事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等	講習会やイベント等の開催数及び、119番通報訓練装置での疑似体験できる人員には限りがあるため、実際に体験できなかった方に対して、アンケート等を活用して体験者同様に119番通報に対する理解度や認知度を上げられる指導を行い、限られた回数でもより多くの体験者(理解者)を増やせるよう進めていく必要がある。						
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	1.拡大	理由	通信指令業務は、高機能消防指令システムの適正な運用と市民の確実、迅速な通報が合わされることにより最大限の効果が発揮出来ることである為、市町民が迅速で確実な通報が出来るよう努力して頂きたい。			
	<32> 2次評価	所管部長	1.拡大	理由	通信指令機器は、災害情報伝達、指揮命令系統の中核を担う極めて重要なものであり、その為には、正確な情報の収集と確保、指揮命令の迅速な伝達を十分に確保しなければならない。その為、市町民が確実に迅速な通報が実施できるよう、効率的、継続的な事業を実施して頂きたい。			
5 Plan - 計画 -								
事業の計画	<33>実施計画	市民に119番通報の重要性を参加者や受講者全員に学んでもらい、一人でも多く、スムーズに通報ができるように119番通報を体験してもらう。		<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
	<34>活動・成果目標	誰でもためらわずに通報することで、火災や災害の被害が軽減でき、また救急において救命率の向上を図る。			コスト	千円	450	450
					事業費等	千円		
				人件費	千円	450	450	